

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第644号 2023年10月8日

「呼ばれた者の集まり (エクレシア=教会)として」 主任司祭 ミカエル鈴木 真

今年は4年ぶりの行動制限のない夏となり、いろいろな行事などが戻ってきて、何かとバタバタと忙しい夏を送りました。

特に青少年関係では、教区の高校生の夏合宿と教区学連(大学生の活動)の夏合宿を、ともに1泊2日ではありましたが、再開することができました。やはり若者にとって、寝食を共にする合宿というのは、絆を深めるとともに同じ信仰をもった仲間としての実感が持てる貴重な機会であることを改めて感じました。とは言え、コロナの3年は長かった…。コロナ前は、それこそ年に6回、それも2泊3日や3泊4日の合宿をこなしていたのですが、3年の間に体力が落ちたのか、はたまた単に歳をとったということなのか、1泊2日の合宿でも体がボロボロでした…。わたしはもっぱら食事を作ったので、なおさらだったのかもしれませんが。ちょっとリハビリが必要だ…なんて思っちゃいました。

逆の気づきもありました。わたしが座長を務める「共同宣教司牧サポートチーム神奈川」では、コロナ前は毎年秋に「信徒・修道者・司祭が共に信仰を深める宿泊交流会」を1泊2日で行っていましたが、コロナになってできなくなり、それでも何とか対面での信仰の分かち合いをやりたいと、昨年から半日企画の交流会を、年2回に増やして開催してきまし

た。すると、大人にとっては宿泊というのはハードルが高いけれど、半日なら…となかなかの参加者が集まりました。県内のいろいろな地区の教会を会場として開催したのも、その周辺の地区の方々が集まりやすい、ということでご好評でした。今後は他県にも出張…ということも視野に入れて考えています。

というわけで、コロナ禍の3年を経て、改めて、さまざまなことを感じ、振り返ることとなったのは、「災い転じて福となす」神さまのわざだな、と実感します。そのような中で、何よりも、やはり「集まる」ことのできる恵みが、いかに尊いことであるかを今更のように感じました。

何かの折に引き合いに出すことですが、「教会」と訳された〈エクレシア〉というギリシャ語は「呼ばれた者の集まり」という意味だそうです。教会は、できたそのときから、これは自分たちが勝手に集まっているのではなく、神さまによって呼び集められたものなのだ、と強く自覚し、自らを〈エクレシア〉と呼びました。そのことは、わたしたちの信仰の土台に「呼ばれる」という要素があることを、いつでも示唆しています。つまり、常に神さまのわざが先行している、ということでしょう。

集まることのできる喜び、呼び集められている恵みを噛みしめながら、これからも、さまざまなレベルで、そして、いろいろな場所で「教会」としての歩みを続けていくことができるよう、心から願っています。